

平成27年度外部精度管理調査結果

試験検査機関で行う試験検査の検査精度の信頼性の確保及び試験検査技術の確認と向上を目的として、体系的な精度の管理を行う必要がある。

平成27年度においても細菌試験、水質試験に関する試験検査精度管理調査を実施し、その結果を平成27年12月4日に開催した試験検査精度管理委員会において協議した。(平成27年度の委員名簿は表1のとおり)

表1 平成27年度試験検査精度管理委員会委員

氏名	所属・職名	氏名	所属・職名
切替 照雄	国立国際医療研究センター研究所 感染症制御研究部長	鈴木 正人	保健福祉部健康増進課長
柳原 尚久	帝京大学理工学部 教授	清嶋 かすみ	保健福祉部生活衛生課長
前田 勇	宇都宮大学農学部 准教授	森川 博夫	保健福祉部薬務課長
小林 雅興	県南健康福祉センター参事兼所長 (県南保健所長)	中根 活広	宇都宮市衛生環境試験所長
大橋 俊子	県北健康福祉センター参事兼所長 (県北保健所長)	村田 忠男	計量検定所長
菅野 良一	環境森林部環境保全課長	今井 清人	栃木県計量協会環境計量証明部会長
久保 昌幸	環境森林部廃棄物対策課長	高山 尚志	参事兼保健環境センター所長
武藤 仁志	環境森林部馬頭処分場整備室長		

細菌試験 (担当：微生物部)

1 実施機関

試料の調製配布は保健環境センターが行った。

E: *Listeria monocytogenes* : 3, 9

F: *Campylobacter jejuni* : 2, 4, 7

2 参加機関

次の9機関が参加した。各機関に1から9までの番号をつけて結果の記載を行った。

県西健康福祉センター、県東健康福祉センター、県南健康福祉センター、県北健康福祉センター、安足健康福祉センター、県南食肉衛生検査所、県北食肉衛生検査所、宇都宮市食肉衛生検査所、宇都宮市衛生環境試験所。

3 試験方法、実施項目及び配布機関

各機関において通常検査を行っている方法(検査実施標準作業書。以下SOP)に準拠して、菌を分離同定する。分離した菌株は、報告期限までに適切な方法で保健環境センターに搬入する。菌株の配布は次のとおり。

菌株：実施項目：配布機関

A: Enterohemorrhagic *Escherichia coli* (EHEC) O26
VT1+ : 1, 6, 7, 8

B: Enterohemorrhagic *Escherichia coli* (EHEC) O145
VT2+ : 2, 3, 4, 5, 9

C: *Salmonella* Choleraesuis H₂S(-) : 6, 8

D: *Bacillus cereus* : 1, 5

4 実施期間

平成27年9月8日に検査試料を配布し、10月6日までに結果の報告をすることとした。

5 試料の調製及び配布

5.1 試料の調製

供試菌株には糞便由来の5株と標準菌株1株(E)を用いた。A~Eの5株は、前日にTryptic Soy Brothに接種し37°C・5時間振とう培養を行った。*Campylobacter*属菌のFは2日前に血液寒天培地に接種し42°C・48時間・微好気培養し、平板上の集落を滅菌リン酸緩衝食塩水(PBS)に懸濁した。各供試菌株培養液・懸濁液は遠心による菌体洗浄後PBSに懸濁し、懸濁液の吸光度を測定した。この吸光度と予め作成しておいた検量線から菌数を求め、供試菌数(≧1.0×10⁵ CFU/ml)になるように試験母液を作成した。検査試料は菌株ごとに試験母液を滅菌試験管に分注し、配布まで4°Cで保管した。

5.2 試料の配布

対象機関には、検査試料を2種類ずつ配布し、「漏出防止対策を講じた容器を用い、冷蔵状態を保持する。受領